

福田寺だより

発行

神奈川県小田原市飯田岡二五七

飯田山 福田 圭寺

住職 橋本尚信

人間として生きる

——ただ仏と仏と——

言い古された言葉ですが『人間』とは、人と人がいて初めてなりたちます。一人では人間はできません。今、社会の歪みはすべて『人間』の欠如から生じているように思われます。人と人との関わりが重視されず、むしろできる限り人との関わりを無くして行こうとする風潮が見受けられます。電車に乗れば、携帯電話の画面と会話(メール)している

人ばかり目につきます。買い物も、コンビニではレジで無言で済みますし、今流行りの通販ならば、売り手と買い手が一切顔を合わせません。まして、インターネットでの買い物は相手がキーボードです。お金借りるのも「無人くん」。遊びの世界も変わりました。ゲームといえ、相手の「人」がいてできたものですが今や相手は機械です。友達の処で遊

んでくると言えば、かつてはどろんこになり、時にはケンカをして泣きながら帰って来たものです。今は、何人かが集まっても、部屋の中でそれぞれが勝手にファミコンやゲームをし、漫画を読み、無言のまま帰って来るのも普通のようなです。そういえば、若い男女のデート風景で、男の子が一人ゲームをし、女の子が他の誰かとメールしている、といった場面が当たり前のようにテレビに写っていました。どうやら、今どきの若者の間では、話すべき相手がいなくても話さなくてよい文化(??)が蔓延しつつあるようです。

人が他人と関わりを持たなくても済んでしまう社会がどんどんと増えていることに、自然と慣らされてしまっているのではないでしょうか。このことは、本当に危惧すべき問題だと思えます。

確かに他人との関わりは、本当に面倒なものです。避けて通れるもの

うしてそんなに売れているのでしょ
うか。それは内容が現代人が陥りや
すい考え違いを小気味よく痛烈に、
しかも脳解剖学者としての根拠のも
とに述べているからだと思います。

例えば、個性を伸ばせといって、
特に教育現場を中心に日本全体が個
性個性といつて、個性を大事にして
いるけれども、もともと社会はお互
いの了解を積み上げ広げることの大
事にしてきたのであり、個性的な人
は社会と逆行し、受け入れられにく
い存在であったはずです。人間の脳
は、個人間の差よりも同じようにし
よう、同じようにしようとする性質
を持っている、というのです。

そういわれると確かに、世の中が個
性的な人ばかりになったなら、社会
常識というものは何処へ行ってしま
うのか。おそらく全く別世界の世の
中になることでしょう。

又、人間「私」と言葉「情報」を
比べたとき、私は変わらないけれど

情報は日々変化していると思ってい
ます。

本当にそうでしょうか。「私」は昨
日の私と今日の私は変化しています
し、まして去年と今年ではかなり変
化しているはずで。かのヘラクレス
イトスが『万物は流転する』と言っ
たのはこのことです。しかし、私
たちは昨日寝る前の自分と今朝目覚
めた自分が別人だとは決して思いま
せん。

逆に流転しないものは何かという
言葉なのです。例えば『万物は流転
する』という言葉はギリシャ語で一
言一句変わらぬまま二千数百年たっ
た現代にまで残っています。このよ
うに永遠に残ってしまう言葉を情報
といいます。そうすると情報は絶対
に変わらないものということになり
ます。私たちはとんでもない勘違い
をしていたことになりました。

他にもさまざまな例を掲げて、い
かに私たちが『壁』で囲まれた中で

しか物事を考えないかを、縷々解き
明かしてくれています。

中でも、私がつとも心に残ったこ
とは、一元論と二元論の問題です。
これを宗教でとらえると、絶対的な
神を崇めるイスラム教、ユダヤ教、
キリスト教などは一元論であり、世
界の三分の二を占めています。それ
に対し仏教をはじめ、八百よろずの
神を祀る日本古来の宗教等は二元論
にあたります。一元論は一神教で二
元論は多神教に当たります。一神教
は絶対的な神の下に時として強い力
を秘めていることは確かです。今、
中近東で騒がれているイスラム原理
主義をみればわかると思います。し
かし、今世界が求めているのは、自
分が絶対である人ではなく、相手の
考えも尊重できる人です。つまり、
神か人間かどちらを選ぶかという時
人間を選ぶ人でありたいのです。

著者の云う『バカの壁』とは、壁
の内側しか見えない人の事なのです。

新年厄除け薬師護摩供養

一月八日午後一時より修行

申し込み受付中

恒例の新年厄除け護摩を一月八日

午後一時より修行致します。護摩を

焚く修行は、近年いろいろな所でさ

れていますが、正統に受け継がれて

いるのは密教寺院であります。福田

寺は、京都・東寺を本山とする真言

密教の寺で、創建以来八百六十七年

、密教寺院としての歴史を刻んで参

りました。

檀家以外の方でも勿論結構ですの

で、皆様お揃いで新年の護摩供養に

お参り下さい。

記

期日・・・一月八日、午後一時より

祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄よけ)

身体健全、病魔退散、家内安全、

交通安全、商売繁盛、業運繁栄、

学業成就、合格祈願、安産祈願、

子授け祈願、その他

申し込み・・・一月七日まで、電話可

電話 0465(36)2755

FAX 0465(37)6688

男性

平成十六年厄年

前厄 昭和三十九年生まれ

本厄 昭和三十八年生まれ

後厄 昭和三十七年生まれ

女性

前厄 昭和四十八年生まれ

本厄 昭和四十七年生まれ

後厄 昭和四十六年生まれ

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より一時まで、住職に

より新年の御祈祷が修法されま

す。ご自由に参拝ください。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、

暮れのお参りの時に、本堂入り

口に用意された納め場所に納め

て下さい。特に大きなものや、

燃えないものは、寺の者に連絡

してください。

おわ奴社を詠む会

昨年十月で百回目を迎えまし

たお経を読む会は、一休みした

ままです。新たな企画を検討中

ですので、何かご意見、ご要望

がありましたら、ご連絡くださ

い。